

牧師所感：

韓国の女流詩人の詩

韓国の女流詩人「イ・オクスン」女史は、牧師の妻として、夫の牧師に 精魂込めて 夫の牧会を支えて、若い時から今日に到っている。

夫の牧師は「パク・ソゴン」先生で、少年の時から 小児麻痺を患われ、障がい者として成長された。

ところで パク・ソゴン青年は、キリストの父なる神様を敬い、敬虔な信仰者として生き、生涯をお捧げするつもりで 牧師になられた。話は前後するが、パク牧師が 韓国の有名な神学校である 大韓イエス教 長老会の神学生であった時分、今の伴侶 イ・オクスン女史も 同級生として学んだ間柄であった。

さて イ・オクスン女史の偉い所は、キリストの愛の精神に則って、身体障害者 パク・ソゴン牧師と夫婦になる決心をされたことである。

ところが 筆者の知る御夫妻は、若い時分から、今日に至るまで、人様が知らない苦勞を、キリストを愛する信仰の故に 克服してこられたのである。

パク 牧師御夫妻が（兩人共 牧師）、牧会を始める時、御自分と同じ障がい者を対象に、牧会することを固く決意され、老境となった今日まで 障がい者信者の 手足となって 働いておられる。

朴 牧師の牧会する教会は 韓国 釜山市で、大韓イエス教 長老会 美門教会の牧師である。朴 牧師御夫妻は、筆者の尊敬する牧会者であられる。筆者が牧会する 八街（千葉）グレイス教会 創立 16 周年に 特別講師としてお迎えした。

さて 朴牧師は、障がい者を牧会なさる御経験^{ひれき}を 披瀝されながら、障がい者を 相手に牧会するお恵みを 感謝しておられた。

尚 障がい者として 一生を寝たきりで、信仰の証しを日本に残した 水野 源三氏の生家を訪ねて行って 詩人の生涯を称えた。

さて 所感のタイトルで掲げた 女流詩人の詩 一首を掲載する。

寒い日

燕尾服を 着飾った ホームレス 下半身に 何やら つけて

うす暗い 横町を ちりん ちりん 鐘を 鳴らして 彷徨う

裸の 男の 下半身に ^{とぼり}夜の 帳 が 近寄り 包み込む

メリークリスマス メリークリスマス！！